

京まなびい News Letter ニュースレター

京都市教育委員会事務局生涯学習部

2019年は「番組小学校」創設150年

～近代京都の「学び」の歴史を学校歴史博物館で体感してみませんか?～

今から150年前、京都では全国に先駆け64校もの小学校が市民の手で誕生しました。これらの小学校は室町時代からの自治組織である町組の流れを汲む「番組」をひとつの学区として設立されたことから「番組小学校」と呼ばれています。

明治維新直後の東京奠都(とうきょうてんと)に危機感を覚えた京都の先人は、子どもたちへの教育に力を注ぐことでこの難局に立ち向かいました。更に、琵琶湖疏水や水力発電所の建設、市電の開業などを手掛け、今日の京都の礎を築きあげてきました。

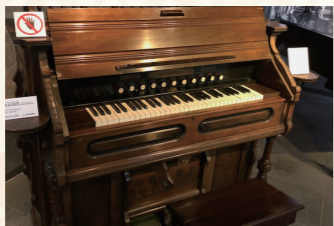
開智小学校(下京十一番組小学校)の跡地に開設された学校歴史博物館には、今日の京都の人々へ受け継がれた「学び」への真摯な想いが、音や形を伴って息づいています。

京(KYO)も学んじゃおっ!「京都市学校歴史博物館」編

昔の小学生の勉強内容は、量も種類も多くてビックリ!しかもめちゃ難しい…

学校教育から京都を支える人材を育てようという熱意が写真や資料から伝わってきます。

展示品の中でも、特に印象的な「燭台付風琴」(オルガン)。音楽の授業が始まった明治期、オルガンは大変高価なものでしたが、子どもたちのためにと地域の人々が寄贈されていたと知り、当時の音楽教育に対する熱意に驚かされます。また、燭台や凝った装飾も当時のまま残っていて、学校で大切に使われてきたことが感じられます。



展示室の録音音源で聴くことのできる、このオルガンのやわらかな優しい音色は、オルガンを弾く先生と子どもたち、そして、それを温かく見守る地域の人々のイメージと重なります。



「給食のコーナー」では、様々な時代のメニューが展示されていて、自分が食べていたものと比べたりして楽しめます。給食の時間はいつの時代でも子どもたちは笑顔。子どもたちの笑顔の写真をみると、やっぱり嬉しいよね～とほっこり(〇〇)

「教科書の展示コーナー」で戦後の教育を実感。例えば教科書に身近なページの!こんなことも教科書に載せていたの!?…と時代を感じます(^^)

文書の書き方や挿絵などを細かく見ていくと、今の教科書にも載せてみても良いのではと考えさせられるものも色々あります。ご自分の時代の教科書と比べてみたり、お子さんやお孫さんと、ぜひ、楽しみながら読んでみてください!(^^)/



京都市学校歴史博物館

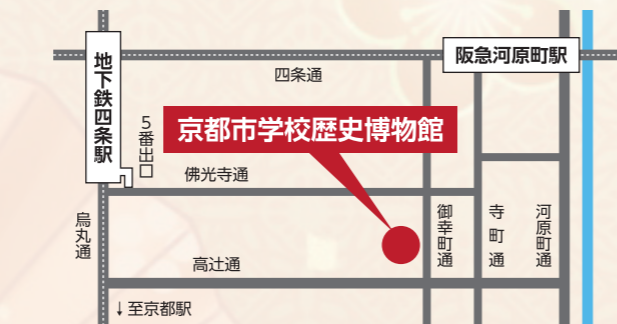
企画展「京都の学校史をたどる——中学校・高等学校編——」
期間:平成30年12月15日(土)～翌年3月24日(日)

学校に関する史料は、学校にあるものがすべてではありません。むしろ、個人が大切に保管してきた日記や写真などが、学校のリアルな姿を映し出すことがあります。本展は、この「学校にはなかった学校関係史料」で、明治期から現代までの京都における中等教育の学校史を振り返ります。

中等教育は、現在は中学校と高等学校で行われますが、70年ほど前までは、旧制中学校(男子校)、高等女学校(女子校)、実業学校(男女別学)などに分かれ、各学校で一貫して教育が行われていました。本展を通して、時代によって変わる若者の学校生活を体感し、思いをさせてみてはいかがでしょうか。



開館時間 午前9時～午後5時(入館は閉館時間の30分前まで)
休館日 毎週水曜日(祝日の場合は翌平日)・12月28日～1月4日
入館料 大人200円/小・中・高生100円
団体(20人以上)は、大人160円/小・中・高生80円
市内の小・中学生は、土・日曜日入館無料



〒600-8044京都市下京区御幸町通仏光寺下る橋町437
TEL075-344-1305/FAX075-344-1327

学校歴史博物館 検索

京都市社会教育委員のコラム まなびいの



二十年後の君へ

京都市社会教育委員 片山 九郎右衛門 氏(観世流能楽師)



片山 九郎右衛門 プロフィール

片山幽雪(九世片山九郎右衛門・人間国宝)の長男。祖母は京舞井上流四世家元井上八千代(人間国宝)、姉は五世家元井上八千代(人間国宝)。父及び八世観世鏡之丞(人間国宝)に師事。国内外で多数の公演を行う他、学校での能楽教室開催、「能の絵本」制作など、若年層のための能楽の普及活動にも尽力。重要無形文化財(総合指定)保持者。平成29年7月から京都市社会教育委員。

最近久し振りに小学校の同窓会にいつてきました。みんな懐かしい面々で、まあ中には二時間くらい名前を思い出せない人もあったのですが。そこはやはり小学生のときの容赦のない思い出と共に突然よみがえってくるのでした。全然変わらない人、全く昔と違う人様々です。私は「小学校からちっとも変わってへんな。」と言われた方ですが。いえいえ、こんな仕事をしていますと、50才を越えた肉体の衰えをかなりリアルに実感します。去年まで難なく回れた型。先月までは四、五回続けられた事がつらい。そのかわりに得られる発想やイメージは確かにあるのですが、何か大切なおもちゃを壊してしまった子供のような感覚におそわれ、せつないものを胸に抱いてしまいます。

今ちょうど歌舞伎の中村鷹之資君に「熊坂」の稽古をつけさせてもらっています。鷹之資君は亡父の盟友であった故・中村富十郎さんのご子息で非常に才能豊かな20才の青年です。その彼に父以来、能の稽古をつけさせて頂いているのですが、何せ20才と53才です。こちらは三度も稽古を続ければ完全に息が上がってしまいます。しかし、むきになって四度五度、ついには八度まで一緒にしてしまいました。教えなければという思



いはありました。しかし、それ以上に若さがうらやましく、まぶしく、俺だって動いてみせるという思いで稽古を続けました。

この「熊坂」という曲は、平安末期の大盗で、60才を越えて数多くの手下を率いて暴れまわった男、熊坂長範その人をとりあつかったものです。伝説では、その大盗を元服まもない源義経(牛若丸)が討ちとったことになっています。そして今回の稽古は、まさにその牛若にほんろうされ、終には討たれてしまう熊坂の姿を、一人で長刀をもって表現するものなのです。

稽古しながら、ふと思いました。これじゃ熊坂の稽古をつけているというより、自分が熊坂、彼は牛若だなあと。だって、20才の彼は全く息も上がってないのに、こちらといえば、みっともない程息もたええなのですから。けれども不思議にみじめな思いはしませんでした。牛若の晴れやかな顔を見ていると一緒に遊んだあとの友達のようにも見えたのです。「はあ一若さには勝てないわ。これが年だなあ。」とあきれ半分。満足半分。もう一度わが息子にもこんな稽古をせねば、と思いました。

未来にとどけ

観世流能楽師

片山九郎右衛門委員執筆! 「能の絵本シリーズ」のご紹介

観世流能楽師・片山九郎右衛門委員の執筆した「能の絵本シリーズ」。お釈迦さまの舍利をうばいとった鬼・足疾鬼と、それを宇宙の果てまで追って取りもどす、仏法の守護神・韋駄天の対決を描いた「舍利」。幼い頃に抱いた純粋な恋心が、やがて乙女を大蛇の姿に変えていき…、道成寺の鐘にまつわる悲恋の伝説をもとにつくられた能の名作「道成寺」など。能の人気タイトルを絵本でご紹介しています。お子さんはもちろん、おとなの方にも、古典の世界を身近に親しんでいただくことができます。

問合せ 公益財団法人片山家能楽・京舞保存財団事務局 TEL075-551-6535/FAX075-532-2841

「京(みやこ)まなびいニュースレター」の内容についてのお問合せ先

京都市教育委員会事務局生涯学習部(生涯学習推進担当)
京都市中京区富小路通六角下る骨屋之町549(元生祥小学校)

TEL:075-251-0410 FAX:075-213-4650 メールアドレス:shogaigaku@edu.city.kyoto.jp

京まなびいニュースレター第20号 平成30年12月発行



京都市図書館でも閲覧・貸出を行っています。是非ご覧ください!

